

平成29年度教育改革ICT戦略大会 開催要項

日時 平成29年9月5日(火)・6日(水)・
7日(木)

9月5日(火): 全体会

会場 アルカディア市ヶ谷
(東京、私学会館)
東京都千代田区九段北4-2-25
TEL:03-3261-9921
<http://www.arcadia-jp.org/access.htm>
JR中央線(総武線)、地下鉄南北線、有楽町線、
都営新宿線「市ヶ谷駅」下車 徒歩2分

主催 公益社団法人私立大学情報教育協会
後援 文部科学省(予定)

テーマ
学びの質向上を加速する取り組みとICT活用

開催趣旨

「大学改革実行プラン」の最終年度を迎え、教育の質的転換に向けた改革行動が急がれている。他方、政府では、平成30年度から5年間の教育政策の基本方針と目指すべき主な取り組みについて、「第3期教育振興基本計画」の基本的な考え方を公表し、予想される社会の変化、国際的な教育政策の動向を踏まえる中で、「大学教育においては、三つの方針に基づく教学マネジメントのPDCAサイクルの強化の取り組みを進め、大学教育の質向上を図り、学生の問題発見・解決能力を育成していくことが重要である」とし、教育政策推進の基盤整備として、「学生が主体的に学修するアクティブ・ラーニングへの展開など、教育の質向上の観点からICTの利活用を積極的に推進する必要がある」としている。

三つの方針策定の一体化が法律で義務化されたことを受けて、入学から卒業までの教育施策及び教育活動の実質化が要請される中で、成果の検証・改善を通じた教育の質保証への取り組みが課題となっている。

そこで本大会では、学びの質向上を加速する取り組みを振り返る中で有効性及び課題を整理し、効果的に進めるためのICTの活用方策等、改善に向けた今後の方向性を探求することにした。

		会場: 3F富士
9:50	開会挨拶 公益社団法人 私立大学情報教育協会会長 向殿 政男 氏	
10:00	【政府における教育の振興に関する施策の基本方針】 第3期教育振興基本計画策定の審議状況 2030年以降の社会の変化を見据えた教育の目指すべき姿、方向性及び大学教育における教育政策で重点的に取り組むことが議論されている施策について高等教育政策の動向を読む。 筑波大学大学研究センター特命教授 金子 元久 氏	
10:30	【教育の質保証に向けたアセスメント改革と実践的な取り組み】 産業界と協同した評価の観点・尺度の開発と ICT 活用 3つのポリシーの講評に続くのは、学修成果をいかに可視化するかという課題である。大学の評価は産業界に信頼されておらず、評価の観点と基準が共有されていないという問題があり、双方が連携して評価内容・方法をすり合わせて共有する仕組みが必要である。その結果を教育プログラムの改善に反映させていくサイクルをいかに体系的かつ計画的に確立し、eポートフォリオなどの評価ツールを活用してモニタリングしていくことで学修成果の可視化を進め、学生の自己評価能力の向上を図っていくかが求められている。 関西国際大学理事長・学長 濱名 篤 氏	
11:30	【卒業時における質保証の取り組み強化を目指した試み】 プレ・ディプロマサブリメントを活用した学修過程・成果の可視化と ICT 活用 卒業までに身に付けた能力を学年進行で「プレ・ディプロマサブリメント」として学生に提示することにより、学修の習熟度を学生と教職員が共有し、学生に学びのPDCAサイクルの習慣化を通じて学生自身の自己理解と成長を目指しており、授業外学修、キャリアポートフォリオ、学生カルテなどICTの積極的な活用を目指している。 東京都立大学副学長・大学戦略室長 湯本 雅恵 氏	
12:00	休憩	
13:00	【シンポジウム：教育改革の成果を点検】 教育改革によって学生の何が変わったのか アクティブ・ラーニング、双方向授業、反転授業、体験参加型プロジェクト授業、ファシリテータによる学修の相談・助言、シラバスの明確化、学修ポートフォリオによる学びの振り返りなど、教育の質的転換に努めてきているが、学生の学びは向上したのだろうか。自ら学びに取り組み主体性、事前・事後学修への学修行動、論理的・合理的・創造的・批判的な思考力など、学生の能力がどのように変化してきたか、形だけの変化ではなく、教育現場から論点を整理し、本質的な変化をもたらす教育改革を全体討議で探求する。 創価大学教育・学習支援センター長 望月 雅光 氏 上智大学理工学部教授 田村 恭久 氏 玉川大学学長 稲葉 興己 氏 多摩大学経営情報学部教授 今泉 忠 氏	
14:40	休憩	
15:00	【学修成果の評価・検証を進化・発展させる新たな取り組み】 人工知能を用いた自己成長支援システムとポートフォリオの一体化 正課・課外授業の学修成果をビッグデータとして蓄積し人工知能技術で評価・検証していく中で、7千人の学生一人ひとりが大学で何を学び、何をなすべきかを常に考え、実際の行動に移している自主的・主体的な学びを支援するICTを駆使した教育システムの整備を目指している。 金沢工業大学情報処理サービスセンターシステム部長 高島 伸治 氏	
16:00	【真の学力を質保証する教育改革の課題】 「学力の3要素」を深化・発展させる大学教育改革とICT活用 多極化・グローバル化社会への転換、産業構造等の転換など先行きが不透明な時代が来ている。その中で特に、若者の資質・能力が国の命運を担っている。十分な知識、技能、それらを基盤にして答えが一つに定まらない問題に自ら解を見いだしていく思考力・判断力・表現力等の能力、これらの基になる主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度の全てを身に付けられるようにすることが重要であり、その実現に向けて、教学改革、教員職員の意識改革、ICT活用の全学的な普及が大学の責務として喫緊の課題となっている。本講演では、これらの課題について現状と展望を述べる。 独立行政法人 日本学術振興会理事長、本協会副会長 安西 祐一郎 氏	
17:00	終了	

9月6日(水): テーマ別意見交流

	会場: 5階 大雪	会場: 5階 穂高
10:00 ~ 12:30	<p>【分科会: A】 アクティブ・ラーニングにICTとモバイルを活用した取り組み</p> <p>大人数授業でのICT活用の工夫、モバイルを活用した双方向による参加型学習の工夫、PCとモバイルを活用したグループ学習、教室外学習の工夫などの紹介を通じて、アクティブ・ラーニングを効果的に進める手法を共有する。</p> <p>「LMSを活用した大人数授業におけるアクティブ・ラーニング」 関西大学教育推進部准教授 岩崎 千晶 氏</p> <p>「大人数講義形式授業におけるスマートフォンの活用」 専修大学全学カリキュラム協議会共同座長 経営学部教授 佐藤 暢 氏</p> <p>「PCとモバイルを活用したアクティブ・ラーニング環境」 中京大学情報理工学部教授 宮田 義朗 氏</p>	<p>【分科会: B】 学修成果可視化に向けたIRの取り組みと課題</p> <p>教育の質保証を客観的、科学的に検証する仕組みとして、学内で所有する入学選抜から卒業後までの教育データを統合的にデータベース化・可視化し、特定のテーマを設定して因果関係を整理する中で意見交流を通じて確認し、改善策の提案を行う取り組み状況と、今後普及推進していく上での課題について認識を共有する。</p> <p>「学生の成長プロセスを可視化するIR-エンrollmentマネジメントの観点から-」 早稲田大学・大学総合研究センター 姉川 恭子 氏、中山 勝博 氏</p> <p>「IRの活用と課題」 大阪府立大学高等教育開発センター准教授 畑野 快 氏</p> <p>「BIツールを活用したIR推進」 上智学院IR推進室 相生 義春 氏</p>
12:30 ~ 12:55	<p>大学・企業連携によるICT導入・活用事例(ポスターセッション)の概要紹介 アクティブ・ラーニング、LMSシステム、ラーニングコモンズ、ポートフォリオシステム、IRシステム、教学マネジメントシステムなど</p>	
12:55	休憩	
14:00 ~ 16:30	<p>【分科会: C】 学修ポートフォリオシステム活用・構築のガイドラインと大学での活用状況と課題</p> <p>学修ポートフォリオの導入促進・有効の活用方策、eポートフォリオシステムに備えるべき機能の留意点について、本協会委員会がまとめたガイドラインを説明する。その上で、学修ポートフォリオを活用して効果をあげている実例を踏まえて、大学としての組織的な体制作りの課題、学修支援を一層充実していくためのeポートフォリオシステムの整備、IRの基盤データとしての対応などについて認識を共有する。</p> <p>「学修ポートフォリオシステム活用・構築のガイドライン」 本協会大学情報システム研究委員会 委員長 岩井 洋 氏</p> <p>「活用事例」 *医療系教育のPBL活用 昭和大学歯学部教授 片岡 竜太 氏 *自己成長記録の活用 奈良教育大学次世代教員養成センター 特任准教授 望月 崇帆 氏 *学修計画サポートの活用 国際基督教大学学修・教育センター 一澤 真紀 氏</p>	<p>【分科会: D】 価値の創出を目指した問題発見・解決思考の情報リテラシー教育モデル</p> <p>自ら問題を発見し、課題解決に向けて主体的に解を見出す能力が求められている。その学修基盤として質の高い情報を選択し、情報及び情報通信技術を用いて課題探求、仮説検証・予測を科学的に行い、新たな価値創出に関与できる情報リテラシー教育モデルを体系化するため、初年次教育における分野共通の情報リテラシー教育と専門教育と連携した教育モデルの授業方略、教材開発、授業の評価方法・指導方法、大学執行部への理解促進について提案し、実現に向けた課題を整理するとともに、本協会が果たすべき役割を確認する。</p> <p>本協会情報教育研究委員会 情報リテラシー・情報倫理分科会 分野別情報教育分科会 による合同で対応</p>
16:45 ~ 18:00	<p>情報交流会 ※参加費 別途4,000円が必要です。 会場: 4F 鳳凰</p>	
12:30 ~ 17:00	<p>大学・企業連携によるICT導入・活用事例(ポスターセッション) アクティブ・ラーニング、LMSシステム、ラーニングコモンズ、ポートフォリオシステム、IRシステム、教学マネジメントシステムなど 会場: 5F 廊下</p>	

9月7日(木): 大会発表(82件)「発表一覧」も、申込方法と同じ下記Webよりご覧下さい。

申込方法 **Webからの申込み**
下記Webの「参加申込み」ボタンを押し、画面表示に従って入力、送信下さい。
<http://www.juce.jp/LINK/taikai/taikai2017.htm>

FAXでの申込み
別紙の申込用紙に記入の上、送付下さい。 **FAX: 03-3261-5473**

※申込内容で当協会が取得する個人情報は、次の目的に利用します。「大学名、氏名、所属(学部、部署)」は、当日配布する資料(冊子)に参加者名簿として掲載します。「電子メールアドレス」は、今後の事業案内の連絡先情報として利用します。

申込締切 **8月29日(火)**
※締切日以降の申込や当日申込も受け付けます。
※締切日までに申込みされた方の大学名、氏名を当日配布の資料の参加者名簿に掲載します。

参加費振込 できるだけ8月29日(火)までに振込み下さい。

一括申込みの場合
振込依頼人名には、大学名(社名)の他にできるだけ担当名または部署名を入れて下さい。

個人申込みの場合
振込依頼人名には、大学名と氏名の両方をできるだけ入れて下さい。
〒102-0073 千代田区九段北 4-1-14 九段北 TL ビル 4F TEL:03-3261-2798

振込先 **りそな銀行 市ヶ谷支店 普通0434635 私情協(大会参加費)**
〒102-0073 千代田区九段北 4-1-14 九段北 TL ビル 4F TEL:03-3261-2798

*振込手数料は申込者各自で負担願います。
*銀行のATM機で振込みますと、本協会の口座名義人が上記略称ではなく、本協会の正式名称「公益社団法人私立大学情報教育協会」で表示されますのでご了承下さい。
*9月2日(土)までのキャンセルは、参加費から振込手数料を差し引いた金額を返金します。
それ以降のキャンセルについては、資料代(送料含む)、振込手数料、その他実費(情報交流会申込みの場合)を請求させていただきます、後日資料を郵送いたしますので、ご了承下さい。
*キャンセルの連絡は、下記のFAX、メールのいずれかにてお願いします。

参加費 **3日間参加で割引に! 加盟校 27,000円→21,000円 非加盟校 54,000円→42,000円**
※9月6日「情報交流会」は別途、下記の参加費が必要です。
※9月7日の発表者は大会期間中の全プログラムに参加可能(申込不要)ですが、9月6日情報交流会は一般申込み・参加費が必要です。発表者や共同研究者等の参加費についての詳細は下記サイトをご覧ください。
<http://www.juce.jp/LINK/taikai/17happyo/sankahi.htm>

※参加費はすべて税込金額	9月5日(火)	9月6日(水)	9月6日(水) 情報交流会	9月7日(木)
加盟大学・短期大学、賛助会員	9,000円	9,000円	4,000円	9,000円
非加盟大学・短期大学	18,000円	18,000円	4,000円	18,000円

本協会加盟校は右サイトで確認下さい <http://www.juce.jp/LINK/kain/univ2.htm>

参加者には、加盟校に限定して当日の発表スライド(許可が得られたもの)を後日閲覧できるようにします。

問い合わせ・送付先 **公益社団法人私立大学情報教育協会事務局**
〒102-0073 千代田区九段北 4-1-14 九段北 TL ビル 4F
TEL:03-3261-2798 FAX:03-3261-5473 E-mail:info@juce.jp (問い合わせ用)
<http://www.iuce.jp/LINK/taikai/taikai2017.htm>